

# 立体感のあるタオル製品の開発

— タオル製品デザイン企画手法開発研究 (R2) —  
 愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 田中 祐子

猛暑対策をコンセプトに涼感などを向上させる「空間」に着目し、立体感のあるひだ織を用いたタオルシーツの試作開発を行いました。

よこ糸に綿よりも通気性が良好なラミーとペーパーを用い、通気性・装飾性を高めるため、独特の凹凸により、生地表面に空間のあるひだ織組織を応用した柄出し表現を検討し、夏用タオルシーツの試作開発を行いました。

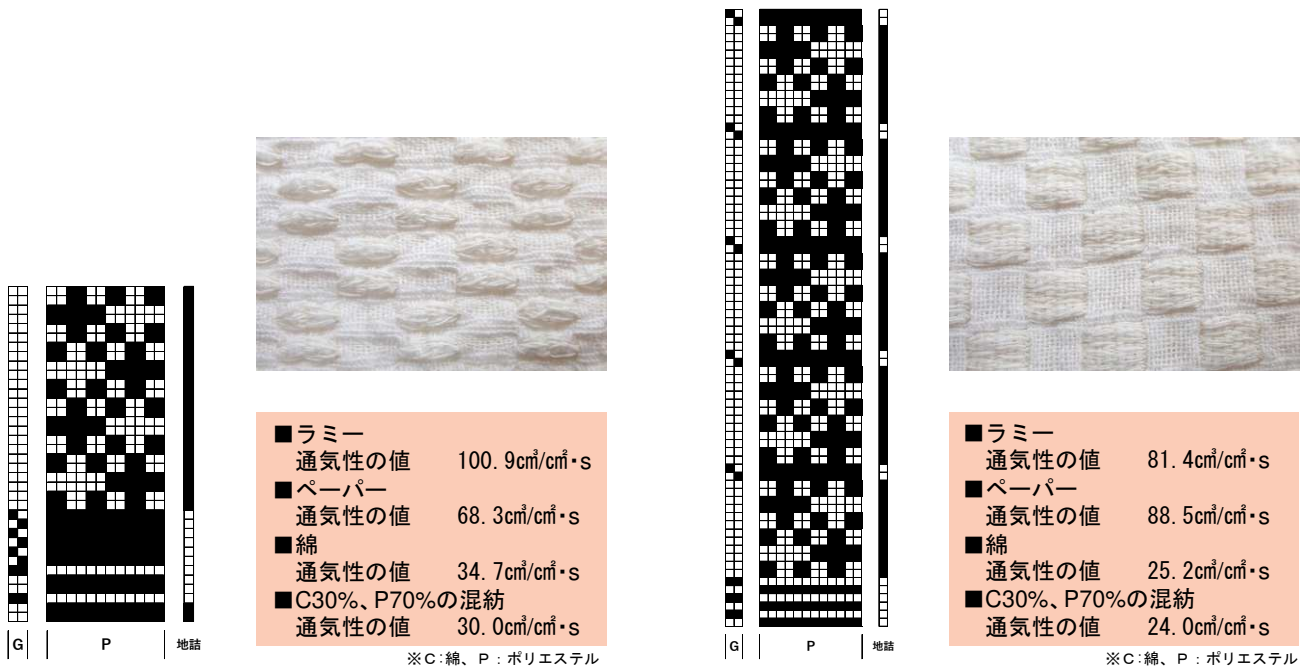


図1 ひだ織組織①

図2 ひだ織組織②

表 製織条件

織機	高速レピア織機(イマウィービング社製G6200)
筵	46羽/3.79cm
製織組織及び打込	図1、図2 ※通常部分は50本/2.54cm
パイル糸	綿糸20/1 <sup>S</sup>
地たて糸	綿糸40/2 <sup>S</sup>
よこ糸	それぞれ次の4種類 (ラミー糸28.6/1 <sup>S</sup> 、ペーパー糸24.1/1 <sup>S</sup> 、綿糸20/1 <sup>S</sup> 、混紡糸 20/1 <sup>S</sup> )
筵引き込み	G P

凹凸のある生地と素材の選定により、通気性を向上させ涼感を高めたタオルシーツを試作開発できました。

本研究は、県単研究「タオル製品デザイン企画手法開発研究」により実施しました。